

はじめに

青森港は、本州～北海道間のフェリー航路を有し、また、銅鉱石、木材等を取り扱う貿易港である。しかし、近年、近隣港湾のコンテナ貨物取扱の伸長を背景に、内貿・外貿貨物共に低迷傾向にあり、青森港の港湾物流促進のための方策が求められている。

青森港の物流拠点としての活性化を進めるため、青森港国際化推進協議会（APIC）が主体となって、韓国とのコンテナ定期航路の開設を視野に入れ、青森港を巡るコンテナ貨物の実態等を把握するなど、ポートセールス活動を進めてきた。

しかし、全国の外貿コンテナ港湾は 60 港に達しており、こうした港湾淘汰の時代に生き残るためには、コンテナ航路だけに目標を絞った港湾経営戦略を持つのではなく、近隣港湾と異なる港湾機能・サービスを追求していくことが必要となっている。

青森県は、ロシア・ハバロフスク地方と友好都市の関係にあり、同市との定期航空路も有し、地理面、交流面のいずれもロシア極東地域との関係が深い。ロシア極東地域においては、大型プロジェクトや消費購買力の向上を背景とした経済発展が伝えられており、青森県を拠点としたロシアとのビジネスチャンス（貿易）が広がることが想定される。そして、そのビジネスを支える国際輸送航路として、海陸複合一貫輸送機能・能力を有する青森港の活用が考えられるところである。

本調査は、平成 15 年度、16 年度にわたって、青森港とロシア極東地域の港湾とを結ぶ国際フェリー航路（RoRo 船含む）開設の可能性を探り、貨物需要を調査し、航路開設の条件を整理した結果を踏まえ、青森港の港湾経営戦略の構築を目指すものとして実施された。ロシア極東地域の港湾としてウラジオストク港に焦点を当て、青森港とウラジオストク港との間に航路を開設される場合に想定される貨物とその量を明らかにし、就航船舶、頻度（スケジュール）及びその採算性の検討を行うものである。